



かがやき ニュース

つくしの里が移転オープンしました。



昨年6月、つくしの里川中島店移転の必要性に迫られ、12月に建設着工し、ようやく「長野南店」として2月20日に完成しました。この建設にあたり、組合員さんから多大な資金協力を頂きましたこと感謝いたします。改装された、明るく、働きやすいところで、地域の皆さんの期待に応えられるように、初心に帰り、「美味しい」お弁当をつくり、「安心」をお届けします。また、長野市南部の活動の発信拠点としても活かせるようにしていきます。

本部・北信地域センター

長野県長野市南長池 761-3
(本部) TEL 026-263-2386
(北信) TEL 026-217-3601

中信地域センター

松本市本庄 2-3-18
TEL 0263-50-8439

東信地域センター

佐久市下越 612-1
TEL 0267-78-5070

南信地域センター

飯田市知久町4丁目 1203-2
高田ビル2階
TEL 0265-23-1109

「地域包括ケアシステム」を 住民の主体的運動の視点で



社会福祉法人協立福祉会
事務局長 塩原秀治

中信民医連の第4次長期計画(2010～2015年)の事業目標の基調は、「無差別・平等の医療・福祉を実現していこう」とし、中信地域で、住民の要求に総合的にこたえる立場で、いっそう質の高い保健・医療・介護の事業所群を整備し拡充していこうと決め、事業展開をしてきました。地域包括ケアシステムを見据えて取り組んできたことを少し報告します。

塩尻協立病院の隣接地に介護型有料老人ホーム定数40名、小規模多機能居宅介護、デイサービスを併設した高齢者福祉施設をオープンさせました。

特養の待機者が多い中で、比較的医療的なケアが必要とされている方もこうした施設で受け入れができます。家賃や管理費なども比較的抑え、経済的負担を軽減したものにしています。病院で一定の治療を終えた患者さんが、在宅での介護力が乏しいために、施設入所を希望されてもなかなか入所できない状況がありました。

医療との連携では、塩尻協立病院の医師が定期的に診療を行っています。

「地域包括ケアシステム」が求められていますが、やはり、住居「住まい」がなければ、なりませんし、そこに医療のサポート体制がとられなければ、安心して住み続けることはできないでしょう。地域包括ケアを考えるに医療と密接な連携は不可欠だと思います。

塩尻市からは、地域密着型事業である、小規模多機能居宅介護施設を、塩尻協立病院のある地域にぜひ、つくってほしいと強く要請されましたので、併設型で設置しました。

隣地の公民館では、介護予防教室、認知症の学習会など、地域まるごとの取り組みに病院、高齢者施設のスタッフが講師やインストラクターとして参加しています。地域包括支援センターのランチとしての役割も果たしています。行政としっかり連携し、地域住民の主体的な力を引き出して、国の進めていく安上りの方向ではない、真の社会保障の前進のために、今後も奮闘していきたいと考えています。

長野高齢協組合員数

(平成27年2月末現在)

全体	3,607人
北信	2,198人
中信	722人
東信	510人
南信	166人
その他	11人

クラフト「籠」



組合員さんがセンターに足を運んでくれ高齢者生協の活動に気軽に参加してもらうために「ふれあい会」として充足したクラフト籠作り、月1回でもうすぐ1年9ヶ月になります。

(東信・浅沼しげじ)

1月の理事会での学習テーマをもとに、高齢協らしい事業所づくりについて考えます。

私たちの事業所の働き方は「協同労働」ですが、そうした働き方はまだまだで、道半ばです。

「賃金を上げて欲しい」「経営なんて分からない」「努力しても採算が採れないのも現場の責任なの」「人手不足の中、頑張つて剰余が出て報われない」など経営に関する事、「地域との協同とは具体的に何すればいいの」など地域福祉事業所づくりについての疑問が就労組合員の中に多くあります。

これらの意見に私の考えを述べます。

(1) 協同労働について
労働者が企業等で働く場合、一般的には雇用されて働くこととなります。こうした経験から高齢協で働くようになった方々から、先のような疑問や要求が出る

のは当然な事だと思えます。しかし、私たちは「雇われ者根性」を捨て、働く者が主人公となり、事業・経営を進める。「協同労働」を目指しています。「雇用労働」から「協同労働」への、新しい働き方を目指しているのです。こうした働き方は、指揮命令で言われたことだけを行うより、主体的に関わるだけに学習が不可欠です。知らないでは済まされない課題が沢山あります。主体的に関わる事は、同時に責任も問われます。その意

高齢協らしい事業所づくりを

小澤房生

味では、誰かの指揮命令下で働く方が楽かもしれません。自らの事業所運営を自ら考える事。事業所の収支についても責任を持つ事が求められます。当然、組合員さんの出資金を預かり事業を行つてい

る以上資金を食いつぶす赤字は許されません。併せて、自らが出資し、事業所の経営を支えます。就労組合員は賃金の2ヶ月相当額を目標に積立増資を行います。

(2) 地域福祉の拠点づくりにつ

高齢協は県下4地域にセンターを置き、介護保険事業、配食事業、指定管理等の公共サービス事業、健康・生きがいづくり、生活総合支援、やすらぎサポート、人材育成(職業訓練講座)等、多岐に渡る事業所の運営・経営を行っています。これらのサービスを利用している方々が、単一のサービスの利用で終わることなく、「生活丸ごと」を助け合うことにより、健康で、長寿を全うできる地域づくりを目指します。「生活丸ごと

助け合えるサービスと活動の地域格差や不十分さを克服することが求められます。また、私たちだけでは解決できない問題について、地域の協同の力で担える地域づくりを進める必要があります。その拠点になることが、地域福祉を進める第一歩となります。

全ての組合員がサービスを利用しては元氣な高齢者が大勢参加しています。事業所等を活用し、サロンや寄り場作り、趣味や元氣作りのサークルなど、地域の方々と共に多様な活動を行う事は地域福

祉の拠点づくりに繋がる大事な活動です。

(3) 次年度の方針を決める総代会に向けて

今年度も後わずかになり、新年度に向け各事業所では方針、予算作りが行われています。「協同労働」では方針、予算作りを、皆が意見を出し合い作る作業がとても重要です。徹底した職場論議を行っています。皆が納得した計画が積み上げられ、6月20日の総代会で決定され、そして、その執行にひとりひとりが責任をもって取り組んでいく。そんな組織を目指します。

医療・介護・年金・生活保護などの社会保障制度は後退、消費税増税等国民負担は増加し、介護保険は改悪され軽度の方は利用が制限されます。こんな状況だからこそ、「一人ばつちの高齢者をなぐし、元氣な高齢者が一層元氣に、人と地域のお役に立つ仕事起こし」の出来る私たち高齢協の出番です。

新たな仕事起こし、事業の幅と深さの拡大、暮らしやすい地域づくりの為の運動の取り組みが求められています。(副理事長)

読者からの投稿

読者の皆さんからの投稿を一部ご紹介いたします。沢山の投稿ありがとうございます。

○屋根からの落雪にも要注意！ツララも危険です！雪の事故が相次いでいますね。今後少しでも悲しい思いをする人が減っていけば良いなと思います。一人ひとりの意識の高さも大切だと思います。(Iさん)

○米ちゃん弁当の最初のころの献立に困りました。今回の記事の中で米ちゃん弁当が地域の皆さまにとってかけがえのない事業所になっているのを拝見させて頂いたとき、うれしく思っています。今後益々の発展をお祈りします。(Mさん)

○昨年途中より会員となり「絵でがみ」教室に参加しています。輝いている他会員の皆さまと知り合えたこと、地域版の新聞紙上に絵てがみが採用されたこと等、大きな前進です。これからもよろしくお願ひします。(Iさん)

○1月に誕生日を迎え63歳で他界した母の年齢をとうとう越えました。でも、料理、裁縫、書などは

何一つ未だに母を越えられません。まだまだ精進が足りないようです。(Yさん)

○「かがやきニュース」は毎号内容が充実しています。No.110号も鮮やかで明るい表紙や見やすくきれいな誌面、各地区の取り組み報告など、いろいろ考えながら読みました。これからも素敵なニュースを届けてください！(Wさん)

○高齢者の気持ち、介護者の気持ちを受け止めて、自らの力を養う記事に期待しています。(Iさん)

○「ふるさとは今も変わらず」という歌を私の入っているコーラスグループで歌っています。新沼謙二が2012年に作詞作曲したこの歌はビュアな合唱曲になっています。今日、本人が歌っているのを初めてラジオで聞き、「厨好きになりました。もうすぐ4度目の3、口を迎えます。東北の被災した方々への連帯の気持ちを込めて、この歌を唱つてゆきたいと思ひます。(Iさん)

公 告

第17回通常総代会を2015年6月20日(土)松本市で開催いたします。

つきましては、総代の選挙について以下の通り公告いたします。

○総代定数
総代定数110名
東信15名 北信67名
中信22名 南信6名

○立候補期間
2015年4月1日(水)
～4月15日(水)

*立候補される方は本部選挙管理委員会事務局に「立候補用紙」をご請求ください。

○選挙日
2015年4月17日(金)
選挙管理委員会
山崎 快朗 羽入田弘恵
吉池 千鶴 小泉 政文
米本 玲子



編集後記

「日本は一つの時代を終える。アフガニスタンで医療や農業の支援活動を続けるベンチャワール会中村哲医師の言葉です。

苦難にあえぐ国で、その人びとのいのちと生活・平和を守るために身を賭して奮闘している人に、祖国日本がこんな姿で映っていいのでしょうか。

一つの時代とは戦後70年、憲法9条によって守られてきた戦争をしない時代です。無駄な戦費を使わずに日本の復興の礎づくりと発展に役立ててきた事実を、安倍さん忘れてはいませんか。社会保障にもっとお金をまわしてください。(依田)

前号のクロスワード正解「マツモトヤマガ」でした。

正解者：22名 当選者（3名）：池田加代子さん、横山百合子さん、和地弘寿さん
 ※いよいよ今年はJリーグ最高峰への挑戦です。
 おめでとうございます。クオカード500円と万座温泉入浴券1枚をお送りします。

1		2	3	4	
		5			
6	7		8	9	
10		11			
	12	13		14	15
16		17	18		
19			20		

〈前号の答え合わせ〉

1	ウ	エ	2	ダ	3	ト	4	マ	ト	
			5	チ				ン		
6	ヨ	7	イ	ン		8	ヤ	ヨ	9	イ
					10	ト		11	ウ	ブ
12	カ		13	ノ	14	モ	15	ト		ニ
							16	ツ		ン
17	ミ						18	フ		グ

- 〈タテのカギ〉
- 地球の約109倍の大きさで、光と熱を与えてくれる星
 - 五千円〇〇の表に描かれている樋口一葉
 - 液体をすい上げて他に移すのに使う
 - 一期〇〇〇
 - ブリキなどで出来ている筒型、箱型の入れ物
 - 生き生きとした気力
 - 長野県は青森県に次いで収穫量が多い果物
 - 国を豊かにすること
 - 川の中などで土砂が積もって水面に出ている所
 - 昭和59年「つぐない」を唄って人気を博した、今は亡き〇〇・テン
 - 沖縄県の県庁所在地
 - シーザーがルビコン河を渡った時の決断。「〇〇は投げられた」

- 〈ヨコのカギ〉
- 高いかけから落下する水
 - あてもなくさまよい歩くこと
 - 大またに悠々と歩くこと
 - 前もってする試合や選考
 - 海や湖が陸地に入り込んだところ
 - テニスの四大大会の一つ〇〇ンブルドン選手権
 - 〇〇〇〇着て寝たる姿や東山
 - 安倍川餅についている
 - 先手の反対語
 - 勤労所得より不労所得が多くなると更に〇〇〇〇社会が進む
 - 葎の多くは〇〇〇栽培されている
 - 江戸時代後期の柏原出身の俳人 小林〇〇〇

応募方法
 ・ヒントから□に文字を入れて、A～Fまでのアルファベットを順番に並べ替えて、言葉を完成させてください。応募いただいた正解者の中から抽選で3名の方にクオカード500円と万座温泉日進館の無料入浴券1枚をプレゼントします。
 ☆答え、氏名、住所、日常の出来事やニュースのご意見・感想などを記入して、郵便、FAX又はメールにてご応募ください。お待ちしております。
 宛先：〒381-0024 長野県長野市南長池761-3 長野県高齢者生活協同組合「クロスワード」係
 FAX:026-263-2385 メール:info@nagano-koureiogyo.jp 締切日：4月17日（金）必着

2015年度高齢協方針

医療・介護・年金等の社会保障制度の改善、消費税増税、「戦争」を取り巻く情勢はかつてないほどのスピードで悪しき方向へ変わろうとしています。この岐路に立ち、本当に高齢者が「長生きして良かった」と思える社会を実現するための運動と事業の推進が求められます。高齢協にとって、2015年はその声に応えられる組織になり得るかが問われる年となります。

介護保険制度は2025年を見据え、軽度者切捨て、市町村丸投げの地域包括ケアシステムづくりが進められます。私たちの事業高の半分は介護保険事業に拠っています。中核事業である介護事業の再構築と介護保険から外される軽度の方々、今は元気だが将来に不安を抱える方々が安心して地域で暮らしているサービスや活動の開発が求められます。そのためにもひとつひとつの事業所がその地域になくてはならない、地域の方々から頼りにされる存在になる

- ・ ことが必要です。地域の様々な人々と共に創る福祉事業所作りを進めます。
- ・ 重点課題
- ・ 〇生協の柱である組織運動分野の強化を図ります。
- ・ 声を聴く活動をあらゆる場面で推進します。
- ・ 寄り場づくり、サロン活動、倶楽部活動など多様な組合員活動を推進します。
- ・ 組合員同士が学ぶ活動を大事にしながら社会連帯活動に取り組みます。
- ・ 生協の原点である平和を守る運動に他団体と協同して取り組みます。
- ・ 小規模多機能型居宅介護を中心に24時間365日の介護事業を目指します。
- ・ 既存事業所のあり方を見直すと共に、福祉用具貸与事業に挑戦します。
- ・ 介護保険で対応できない生活支援サービスを新たに始めます。

- ・ 介護人材確保、介護職員キャリアアップの再構築、処遇改善を行います。
- ・ 「仕事起こし」は私たちの原点です。新規プロジェクトを立ち上げ新たな分野に挑戦します。
- ・ 全ての就労組合員が協同労働を学び、原則に基づいた職場運営を行います。
- ・ 良い仕事を追及します。
- ・ 三つの協同を大切にします。
- ・ （仲間との協同、利用者・家族との協同、地域との協同）
- ・ 情報の共有、話し合いを大事にし、納得と共感の運営を進めます。
- ・ 決めたことをやりきる。人を育てる組織づくりを進めます。
- ・ 2016年は高齢協設立20周年となります。20年の節目を迎えるにあたり、これまでの歩みを振り返ると共に、これからの展望を見出す記念事業を検討します。

私も組合員です

長野県高齢者生活協同組合で、介護保険制度の話がチラチラ出始めた1996年ごろ、義母の介護をかがやき福祉センター（訪問介護）にお願いました。その際、義母の介護に携わるヘルパーさんの様子を見て、自分もこの仕事をしたいと思つようになりました。

そして2年後、長野市で始まったヘルパー講座を受講して、現時もヘルパーの仕事が続いています。健康に過ごして、元気であるうちは、組合員の皆様やまわりにいる人たちと共に、情熱をもって続けていきたいと思っています。

（インタビュー 永井美子）

北信 北村 蓮子さん



地域づくりの担い手として 全国ケアワーカー集会に参加して

12月13、14日の2日間、「はたらく事は人を命に繋ぐ」と「誰もが居場所と役割を持てる」「ともに生きる」地域を作る「ケアワーカーの新たな役割を問う」をテーマに、東京一橋講堂で全国ケアワーカー集会が開催され、そこに参加してきました。

家出からホームレス生活を経た少年が、センター事業団の方からの声掛けに依り池袋西口方面の清掃業務に就き、立ち直る事が出来たという当事者の発表がありました。また町田市の介護保険のデイサービス事業所では、デイサービ

スに通りながらホンダのディーラーで洗車の仕事をし、社会参加している認知症の方の実例も報告されました。

認知症になっても、あるいは生

活困窮者であっても高齢者でも、働きたいという願いを地域で応援し、当事者がともに働き、地域づくりの担い手になることが最大のテーマであり、ケアワーカーとしての新たな役割だと思いました。

地域との連携や繋がりを大切に、もつと地域を知り、そのなかで私達の東信地区でどんな活動が必要とされているのか、我々組合員全員で考え協力して行きたいと思えます。そのためにも多くの組合員が必要です。高齢協の活動の素晴らしさを伝える為にも、現在の組合員ひとりひとりの存在を大切に、数多くの人達に知っていただき、組合員を増やす努力をして行きたいと思えます。

（東信・武村けい子）



南信だより

伝統の「おやす」 づくり挑戦！

師走も半ばを過ぎたころ、「みんなの家下條」では、利用者さんと職員が一緒に、飯田・下伊那地方に古くから伝わる正月飾りの「おやす」づくりを行いました。「おやす」とはしめ飾りのひとつで、藁を編んで作る細長い花瓶のようなものです。これは神様に捧げる食器とのことで、松飾と一緒に飾るのが風習だそうです。いわゆる神様のお茶碗なので、神様がお腹を空かさないように、ご飯を少しずつ供えたり、雑煮やみかんなどを入れる風習もあるそうです。比較的小さいのでどこにでも飾りやすく、各家庭で少しずつかたちが違うため、神様も帰る家を間違えなくて住むという言い伝えがあるようです。

当日は、初めての挑戦で四苦八苦するスタッフとは逆に、利用者さんは毎年作られているだけあって、それは見事な手さばきでした。手際良く手慣れたものです。そんな



「おやす」づくりの様子

（南信・伊東泰成）

な利用者さんを講師役に、「あゝでも無い、こうでも無い」言い合いながら、みんなで楽しいひとときを過ごしました。

利用者さんの立派な「おやす」に比べて職員の「おやす」は・・・でもそれぞれの個性的な出来ばえに、きっと神様も一年の「福」と共に、各家庭に迷わず帰って来られたことでしょう。手作りだからこそ価値があり、みんなの思いがたくさんつまった正月飾りになるんですね。

職員は利用者さんから教わるのが本場にたくさんあります。地域の伝統や生活の中の知恵は、こうして引き継がれて行くんだということが実感できました。本当に貴重な体験ができた一日となりました。

協同の力を発揮して

全国よい仕事研究交流会2014 北陸信越地域集会in長野

2月1日、長野市の勤労女性会館「しなのき」にて、「人をいのちにつなげる仕事づくりから共に生きる地域づくりへ」のスローガンのもと集会が開かれました。

2つの大きなテーマは、①生活困窮問題への関わりと実践、②協同労働の定着に資する組合員、現場の実践と格闘で、これに沿ったヒントを得る機会となりました。

全部で7団体の、日々努力されている実践報告がありました。地域に入って活動している事業所、地域住民と一緒に取り組める事業所をめざし、地域づくりを盛り込んだ就労準備支援事業の提案、そして生活困窮者自立支援法を見すえた居場所づくり、働く場所づくりを目指す事業所など、多くのことを学びました。

集会に参加し、仕事があり、学びがあつて暮らしていけるすばらしさを感じることが



パネルディスカッション

できました。

そして、困窮を生まない地域づくり、総合福祉の拠点となる活動など、人と地域に必要な協同労働とは何か、その中で豊かな関係をどうつくるのか等々学ぶことができました。

協同労働が目指す人間らしい労働「よい仕事」とは何か、働く人々と地域住民が主人公となる活動は何か、と問いをめぐらすと、「つくしの里 長野南店」の移転に伴う、多くの組合員の方々の協力金や増資がありました。また、地域の方々の協力もたくさんあったそうです。地域に必要な仕事であるからこそ多くの協力を得たのだと思います。これからも専門性をもつたいい仕事が行きたくと思

います。

協同労働定着のために日頃から働く者どうし、そして利用者や家族との協同、地域との協同を意識して、地域に必要な仕事をつくっていくことの大切さを学ぶ良い機会になりました。（北信・相澤京子）

かがやきインフォメーション

「ひなまつり手遊び展」 開催のお知らせ

日時：2015年3月19日〜23日
場所：長野県高齢者生協

東信地域センター
☎0267-7815070



本の紹介

「沈みゆく大国アメリカ」 堤 未果

「シッコ」という映画を観たときも驚いたが、この本を読んだ感想はもっと強烈なものでした。リーマンショックから、医療保険制度改革（通称、オバマケア）に変わって、国民の生活がよくなつて行つたのかと思つていましたが、全くの逆でした。

日本の保険制度は「憲法25条（生存権）」に基づく社会保障の「環」として行われ、「公平・平等」が基本理念の根幹にあります。しかし、アメリカでは「医療ビジネス」という位置づけが考え方の基本になっています。

そして、保険証が一枚あればどの病院でも受診ができ、そんなシステムは日本だけだと言つてことを知りました。

日本の制度のことをもつと学び、私たちの大切な権利を守つていきたいと思つていました。（北信・永井美子）



沈みゆく大国
アメリカ

堤 未果
Tsunehiko Tsutsumi



東信地域センター
発行

中信だより

介護人材創出に貢献！ 有資格者復職支援研修事業

長野県社会福祉協議会からの委託契約のもと、2014年度「有資格者復職支援研修事業」を高齢者生協中中信地区で取組みました。委託契約の成立にあたっては、他に複数の法人も手をあげましたが、介護人材育成事業に懸命に取り組む高齢者生協の実績なども評価され、指名委託に至りました。



みんな真剣です

この研修事業の内容は、介護職系に関わる資格を有しながら、現在介護職についておられない方々を対象にした研修講座で、県内中野市会場で3会場、各20時間余の研修時間を設定し、高齢者生協の中信地域センターと南信地区では9月の「安曇野市会場」と1月の「松本市会場」の2か所で実施しました。（南信地区は10月、飯田市会

場、各20時間余の研修時間を設定し、高齢者生協の中信地域センターと南信地区では9月の「安曇野市会場」と1月の「松本市会場」の2か所で実施しました。）

事業所訪問④ 介護・福祉活動に貢献します！ 「南信地域センター・講座事業」の 人材育成を通じて



コミュニケーション能力を学びます

南信地域センターは飯田駅から徒歩5分の場所にある、好立地の事業所です。今年度の講座事業では、県の委託を受けて実施する「介護職員初任者研修」を2回と、県社協の委託を受けて実施する「有資格者復職支援講座」を1回開催しました。どの講座も内容が充実しており、介護現場で活躍できる人材育成を目指したカリキュラムになっていきます。前回の修了生の感想を紹介します。「自分にとって全く新しい分野の知識を得られたため、とても充実した時間が過ぎました。」「クラスメイトの協力により講座を終了することができた。」「福社への関心が高まり、もっと理解を深めたいと思います。」「勉強が楽しいと思える自分にビックリしました。」「3ヶ月の期間でしたが、内容が詰まっていたので、実習がんばりました。」「苦勞もしたけど、今となれば楽しかったと言えます。」「長野県高齢者生活協同組合でみんなと学べて幸せでした。」「出会いと学びに感謝です。」「学んだことを現場で生かして頑張っていきたいです。」「講座で学んだ事を社会のお役に立てたら良いと思います。」「色んな人がいて楽しく、あつと言う間3ヶ月でした。」「とてもバラエティーにとんだ講座だと思いまし



グループワークの発表



できるまで何度も繰り返します

場。それぞれの会場では10名前後の受講生が参加、中には1時間も通学に要しながらも参加する受講生も見られました。

延べ4日間にわたる講座では、実技演習ではベッドや浴槽、車椅子などの介護用具等を研修会場に持ち込み、受講生も交互に介護する側や介護される側の立場を実感しながら、実践しながらの研修でした。

中信地区の研修講座は、高齢者生協の現役理事がそれぞれ分担しながら、「介護職員に必要な制度と役割の理解、福祉の資格制度、認知症の理解、介護職が行う医療行為、移動・移乗の介助、食事の介助、排泄の介助、入浴の介助」などのカリキュラム講師を務めました。介護から離れたことのある方から、受講生からも具体的な質問も多く、「しつかりした技能や知識を再度身に着け、現場で

た。ここに来て良かったです。本当に感謝です。講座はたいへんだったけど、最後は充実感と笑顔で巣立つて行った受講生さんが沢山いるんですね。今度は学んだ人

「にっこり報告」



高輪協の各事業所で利用者さんなどに感謝されたこと、褒められたこと、うれしかったことなど、沢山の報告があがっています。その一部を組合員の皆さんにご紹介します。

中信センター（松本市）の「かがやき福祉センター中信」（訪問介護事業所）に、介護保険外の自費サービスをご利用いただいた方から、お礼のお手紙をいただきました。

昨年春のことです。この利用者さんは、息子さんの治療で大学病院へ通院するため、県外から松本市にられました。松本では、ホテル住まいをしながら二ヶ月間通院されました。お母さんは息子さんにかかりきりで目が離せないため、買物、洗濯、通院介助、病院での息子さんの見守りなどのサービス提供での関わりでした。

「にっこり報告」

「手紙文抜粋」『現在は自宅にて在宅医療を中心に生活を送っております。住まいのある市内の事業所では、自費でのサポートがなかなか受けられず、現在ほぼ毎日、家事援助などで私どもの生活を助けていただいております。地域によってもいろいろと違いがあることも、こちらに戻って勉強させられました。滞在中は、たくさんのおがままをお許しいただき、毎日を無事に過ごさせていただきました。特に息子の院内での見守りでは、いつも温かく接していただきましたこと、あらためましてお礼申し上げます。』

（中信・小林美代子）

即戦力として役立てたい」との意欲が強く感じられる内容の濃い研修講座になったと思います。また今回の講座を終えて、受講生からも多くを学ぶことができたし、学んでもらうことの難しさも改めて感じました。

修了された方々の就労につながること大いに期待しつつ、介護にかかわる人材の不足が深刻になっている状況を思うと、今後もこのような復職支援講座の継続的な取組みが必要と痛切に感じました。

「受講修了生の声を紹介します」

○講師だけでなく経験者からの助言等もあり、就労にむけ自信になった。

○少人数で何度も繰り返し実技ができ、内容が濃く充実していた。

○講義も聞きやすく、資料も分かりやすく、先生方の講義もひとつひとつ丁寧な説明で良かった。

○初心に戻り実技を含めた研修を受ける機会に恵まれ、現場で使える内容でとても勉強になりました。

（中信・風間隆浩）

東信だより

講演会・パネルディスカッション 「介護保険のこれからと地域づくり」に120人

去る2月21日(土) 佐久市白田のコスモホールの講演会場には、「介護保険のこれから」を知りたいと次々と参加者が集まり、「無関心ではいけない」「聞きたいことがいっぱいある」と、前の方の席に座る人が多いのも驚きで、またたく間に120人以上の人々で座席がいっぱいになりました。

基調講演「介護保険のこれからと安心な地域づくり」は、全国高齢協連合会専務の稲月秀雄さんから、難しい制度の話にもかかわらず、柔和な表情で丁寧にヒモとかれ、介護保険のこれまでの経過と新しい「地域包括ケアシステム」の話にみんな引き込まれ、アンケートには「これまでの経過が聞けて、自分も閉じこもらず地域に参加したい」「ニュースや新聞ではわからなかったが、理解できた」など8割以上の人が「よく分かった」と書かれています。



稲月秀雄さんの基調講演

パネルディスカッションでは、まず佐久市高齢者福祉課山崎ひろ

子係長さんから、佐久市の高齢者施策の実情説明と、「要介護の方には佐久市の事業として、今まで通りデイサービスなどが使えるし、市内には沢山の支援のしくみがあるので利用して欲しい。そして自分の高齢期をどう過ごすか地域の中で一緒に考え、出来る事から実践してゆこう」とむすばれました。質疑で「変わりなく使えるというが、同じようなケアが同額の1割くらいで利用できるのか」「認知症サポーターは養成しても組織されていない」「検査などが出来るか」「検討したい」とのことでした。

白田包

北信だより

「かがやきひろば松代」 運営始まります！

長野市の運営委託事業として、4月1日より高齢協に任せられることとなりました。松代地区では、いさぎさサークル(生きがいデイサービス)を高齢協事業として好評いただいています。それに続いて新しい事業です。地域福祉の運営拠点として、松代保健福祉センター内の一角にあります。

「かがやきひろば松代」は愛称として広く呼ばれていますが、正式名称は「松代ふれあい交流ひろば」で、長野市内の老人福祉センター同様、より身近でなじみのあるようにとつけられたものです。講座の企画を行ったり、交流の場を提供することを通じて、高齢者の皆さんが日常的に生きがいと積極的な気持ちを持っていただくことを目的としています。

かがやきひろば松代では、「イスに座った体操」「骨盤調整ヨガ」「歌声ひろば」「実用細字」の通年型連続講座を4月1日〜3日まで受け付けます。その他にも健康づくりやレクリエーションなどの



かがやきひろば松代の様子

(北信・佐藤 潤)

講座をいろいろと企画していきたいと思います。ぜひお気軽にお寄りください。あつたかいお茶等用意して、おまちしています！

(かがやきひろば松代
長野市松代町東条
3580-1)

マネ鷹野洋美さんは「人々の困りごと相談や、個人にあった制度や施設の利用のお手伝いをしてるので、困ったら先ず包括にご相談ください」と強調。地域の高齢者は移動・居場所・食事・住まいの維持など軽い困りごとで要支援になっていく方が多く、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、周囲の人々もつながりあつて、制度の隙間を埋めるような助け合いが必要であり、その拠点として高齢協や社協、農協が果たして欲しい。とくに四季のベンチなど小規模多機能施設では、施設の対象者だけでなく圏域に住む高齢者の様々なニーズに、対応できるサービスを提供し、「包括ケアシステム」の担い手になって欲しいし、高齢協は地域との連携を強め、多様な取り組みで地域の総合的な支えあいの拠点となり、これから地区単位に広める「モデル的」な存在となることを期待すると言われました。



パネルの片講るい子さん

高齢協東信センター長の鈴木友子さんは、今までの事業と活動を映像で示し、「四季のベンチ」から「地域のベンチ」へと、包括の鷹野さんからご指摘いただいたように、地域の総合的な福祉の拠点

の様子や、施設での優しい介護に救われたこと、しかし制度改定で施設収入が減つては介護する職員への負担が増すことが気掛かりだと話されました。アンケートに片井さんのお話が印象的だったと多くの方が書いてくださいました。活発なフロアーとの討論の中で、ケアシステムの内幕を住民の主体的取り組みにより作つてゆくことが大切であることが確認され、有意義に会が終了しました。なお、この企画は佐久市の「佐久つと支援金」を活用しました。

(東信・横山孝子)

つくしの里 長野南店 改装オープン

根雪の残る川中島平の桃畑にも小紫のオオイヌノフグリが可憐な花を咲かせています。この、春の訪れにあわせて、つくしの里川中島店が「宅配弁当 つくしの里長野南店」として篠ノ井駅近くに移転し、2月20日に改装オープンいたしました。(長紙紹介)

2000年秋にJAグリーンながの川中島支所の敷地内で、わずかな数個から配り始めた手作り弁当。何がまごころなのか、どこまでが手作りなのか、形として見えませんが、工場生産品でなく毎回手間をかけて作ったものを手渡しするのが、つくしの里のお弁当です。貸主であるJAグリーンながのさんの都合もありましたが、老朽化したエリア拡大などを考え合わせ



明るく清潔な厨房

(北信・石坂京子)

と移転するにはちょうど良い時期だったかと思えます。厨房内は、15年前の発足時に中古品として譲り受けたものがほとんどでしたが、今回新しく、スチームコンベクションや食器洗浄機・乾燥器、業務用冷凍冷蔵庫、真空パック器等を備え、安全かつ衛生的な設備環境が整いました。けっして広い店舗ではありませんが、南には3つの大きなF1xワインドがあり、平均年齢62歳のスタッフたちにとっては心浮き立つ明るく清潔な仕事場です。また、配達スタッフ8人は、長野市南部から千曲市、さらに南へと範囲を広げ効率よく利用者さんのもとへ届けるべく最短路を探索しています。最大200食の稼働能力がありますから、1日も早くフル稼働できるよう、なおいっそう励んで参ります。宅配利用者、組合員の皆様だけでなく130名を超える多くの方々から協賛金と増資をお寄せいただきましたこと、厚く御礼いたします。